

要 旨

【目的】

多様なセクシュアリティの人々に対する看護職者の態度とケアの困難感の関連を探索する。また、多様なセクシュアリティの人々に対する看護職者の態度およびケアの困難感に関連する要因を検討することを目的とした。

【方法】

本研究は、日本全国にある 31 病院に勤務する看護職者 1960 名に対し、無記名自記式質問紙調査を行った。調査期間は 2015 年 8 月から 10 月であった。トランスフォビア、トランスジェンダーとレズビアンに対するケアの困難感、その他の関連要因の関係について単回帰分析、決定木分析（回帰木）、重回帰分析、共分散構造分析を用いて分析した。

【結果】

有効回答者は 1285 名であった（有効回収率 65.6%）。看護職者の 20.6%が多様なセクシュアリティに関する教育を教育機関で受けていた。教育機関以外で勉強会や研修会に行ったことがある人は 5.7%であった。看護職者の 23.8%に多様なセクシュアリティの身近な知人がいた。また、同性のパートナーを持つ患者に「保健指導や直接ケアをしたことがある」または「接したことがある」人は 21.9%、トランスジェンダーの患者に「保健指導や直接ケアをしたことがある」または「接したことがある」人は 23.6%であった。用語の認識の平均値は 18 点満点中 14.01 点と高かったが、知識の平均値は 10 点満点中 4.54 点と低かった。トランスフォビアはトランスジェンダーとレズビアンに対するケアの戸惑い・困難感に影響を与えていた。またトランスフォビアには、多様なセクシュアリティの身近な知人の有無、多様なセクシュアリティに関する教育の有無、知識、社会的性役割、性が影響していた。社会的性役割は最も強くトランスフォビアに影響し、次に知識がトランスフォビアに影響していた。ケアの戸惑いはケアの困難感に非常に強い影響を与えていた。

【結論】

多様なセクシュアリティの人々との社会的接触や知識・スキルを増やすことのできる教育は、多様なセクシュアリティの人々に対する態度を看護職者が自覚し、否定的な態度ならびにケアの困難感を軽減できると示唆される。多様なセクシュアリティの人々に対する適切なケアが提供されるために、看護基礎教育や継続教育などを通して、多様なセクシュアリティに関する教育の機会や内容の充実を検討していくことが今後の課題である。